

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	①研修全体の構成及び科目相互の関連がイメージできるようになる。 ②介護サービスの種類と役割について理解できる。 ③介護職の仕事内容とサービス提供の実際について理解できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3		<講義内容> ・介連保険サービス (居宅、施設) ・介護保険外サービス ・利用者の立場からみた介護保険サービスの状況
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3		<講義内容> ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ。 ・施設紹介 DVD の視聴と解説
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	(財)長寿社会開発センター発行 介護職員初任者研修テキスト付属DVD教材「職務の理解編」
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	①介護職が、利用者の尊厳を守り、利用者とともにその主体的な生活を実現させる担い手であることを自覚する。 ②自立支援について理解する。 ③利用者の尊厳を傷つける行為や虐待に関する知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
③ 人権と尊厳を支える介護	3	3		<講義内容> ・人権と尊厳の保持 ・QOLの考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止、身体拘束 ・個人の利権を守る制度の概要
④ 自立に向けた介護	4	4		<講義内容> ・自立支援 ・自立、自律支援 ・残存能力の活用 ・動機の欲求 ・意欲を高める支援 ・個性／個別ケア ・重度化防止 ・介護予防 ・介護予防の考え方
⑤ 人権啓発に係る基礎知識	2	2		<講義内容> ・人権について ・人権への取り組み ・身近な人権のこと ・激増する児童虐待 ・深刻な高齢者虐待 ・介護の現場での人権問題
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性について理解し、職務におけるリスクに気づき、その対策策の重要性を理解する。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥ 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護環境の特徴の理解               <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>・地域包括ケアの方向性</li> </ul> </li> <li>・介護の専門性               <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化防止、遅延化の視点</li> <li>・利用者主体の支援姿勢</li> <li>・自立した生活を支えるための援助</li> <li>・根拠のある介護</li> <li>・チームケアの重要性</li> </ul> </li> <li>・介護に関する職種               <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる専門性を持つ多職種の理解</li> <li>・看護師とチームとなり利用者を支える意味</li> <li>・互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供</li> <li>・チームケアにおける役割分担</li> </ul> </li> </ul>
⑦ 介護職の職業倫理	1	1		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職の倫理の意義</li> <li>・介護の倫理</li> <li>・介護職としての社会的責任</li> <li>・プライバシーの保護、尊重・虐待について考える</li> </ul> <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理についてグループディスカッションを行う。</li> </ul>
⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における安全の確保               <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故に結びつく要因を探り対応していく技術</li> <li>・リスクとハザード</li> </ul> </li> <li>・事故予防、安全対策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントに必要な要素、分析の手法と視点</li> <li>・身体拘束とリスクマネジメント</li> <li>・ケアの質の向上と尊厳の確保</li> <li>・情報の共有</li> <li>・事故に至った経緯の報告（家族、市町村への報告）</li> </ul> </li> </ul> <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントについてグループディスカッションを行う。</li> </ul>
⑨ 介護職の安全	1	1		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の心身の健康管理               <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の健康管理が介護の質に影響</li> <li>・ストレスマネジメント</li> <li>・腰痛の予防に関する知識</li> <li>・手洗い、うがいの励行</li> <li>・手洗いの基本</li> </ul> </li> <li>・感染対策の基礎知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）</li> <li>・標準予防策の実践</li> <li>・感染症発症時の対応</li> </ul> </li> </ul>

(合計時間数)	6	6		
---------	---	---	--	--

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(4)介護福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	①介護保険制度や障がい者総合支援制度の背景と目的を知り、制度の理念を理解することができる。 ②利用者の生活を支援するための介護保険制度、障がい者総合支援制度、その他の制度のサービスについて学び、サービスの概要について説明できる。 ③各専門職との連携について理解ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑩ 介護保険制度	3	3		<講義内容> ・介護保険制度創設の背景および改正の流れ ・介護保険制度の基本的仕組みと介護給付、予防給付の種類、要介護認定の手順について ・介護保険制度を支える財源について ・国、地方、団体などの機能と役割について
⑪ 医療との連携とリハビリテーション	3	3		<講義内容> ・医行為と介護 ・訪問介護 ・施設における看護と介護の役割、連携 ・リハビリテーションの理念
⑫ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		<講義内容> ・障がいの概念（障害者基本法、障害者各法と ICF） ・障がい者総合支援制度の仕組みの理解（申請から支給の流れ） ・権利擁護について（成年後見制度と日常生活自立支援事業） ・個人情報保護法について
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	①高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識する。 ②初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解する。 ③専門職種でのチームケアの重要性・有効性について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護におけるコミュニケーション	3	3		<講義内容>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮</li> <li>・傾聴、共感の応答</li> <li>・コミュニケーションの技法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的コミュニケーションの特徴</li> <li>・非言語コミュニケーションの特徴</li> </ul> </li> <li>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際             <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の思いを把握する</li> <li>・意欲低下の要因を考える</li> <li>・利用者の感情に共感する</li> <li>・家族の心理的理解</li> <li>・家族へのいたわりと励まし</li> <li>・信頼関係の形成</li> <li>・自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする</li> <li>・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</li> </ul> </li> <li>・利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際             <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術</li> <li>・失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> </li> </ul>
⑭ 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録における情報の共有化             <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた</li> </ul> </li> <li>・観察と記録             <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に関する記録の種類</li> <li>・個別援助計画書（訪問、通所、入所、福祉用具貸与等）</li> <li>・ヒヤリハット報告書</li> <li>・5W1H</li> </ul> </li> <li>・報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告の留意点</li> <li>・連絡の留意点</li> <li>・相談の留意点</li> </ul> </li> <li>・コミュニケーションを促す環境             <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議</li> <li>・情報共有の場</li> <li>・役割の認識の場</li> <li>・ケアカンファレンスの重要性</li> </ul> </li> </ul>
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	①加齢や老化に伴う心身の変化を理解する。 ②ライフサイクル理論における老年期のステージの葛藤や発達課題を理解する。 ③高齢者に多い疾病と日常生活上の留意点を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑮ 老化に伴うところとからだの変化と日常	3	3		<講義内容> ・ライフサイクル理論における老年期の葛藤 ・発達と老化について（喪失体験・防衛機制等） ・老化に伴う心身の機能の及び外見の変化（知能・記憶・知覚・身体機能等）と日常生活への影響 ・死生観の確立と自己実現
⑯ 高齢者と健康	3	3		<講義内容> ・高齢者の身体的老化と生活上の留意点 ・高齢者に多い疾病と対策 ・高齢者特有の症状の現れ方と気付きの手がかり
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	①認知症の基礎的知識を習得する。 ②認知症ケアの理念を理解し、利用者の心理や行動に配慮した、人間性豊かな介護とは何かを学ぶ。 ③認知症利用者の生活に即したアクティビティ・ケアの学習や家族へのレスパイト・ケアを学ぶ。 ④BPSDの対応について学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑰ 認知症を取り巻く状況	1	1		<講義内容> ・認知症の現状と背景 ・認知症ケアの理念
⑱ 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		<講義内容> ・認知症の医学的な定義、評価スケール ・原因疾患別認知症の種類と病態別ケアのポイント ・良性老年期健忘との忘れ方の違い、紛らわしい疾患 ・薬物療法・非薬物療法（認知症に対する心理学的援助方法）
⑲ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2		<講義内容> ・認知症の中核症状と生活障がい ・BPSDの種類と対処 ・誘因となる不適切なケアや環境 ・認知症の進行に合わせた世界観の理解 ・多様なコミュニケーションの方法
⑳ 家族への支援	1	1		<講義内容> ・認知症の介護家族に対するアセスメントの重要性や、ストレスについて ・エンパワメントの重要性とレスパイト・ケアの実際 <演習実施方法> ・認知症介護家族の事例を用いて、ロールプレイングを行う。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

# シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	①障がいの概念と ICF、障がい者福祉の理念について理解する。 ②高齢者介護との違いや、それぞれの障がい特性をふまえたケアの重要性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
21 障がいの基礎的理解	1	1		<講義内容> ・ ICF の分類や ICDH からの改正ポイント ・ ICF の視点による援助 ・ 障がいの医学的分類
22 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解	1	1		<講義内容> ・ 障がいの医学的側面と生活障がい ・ 身体障がい ・ 知的障がい ・ 精神障がい ・ その他の心身の機能障がい
23 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1		<講義内容> ・ 家族の障がいの受容課程と思いの頓解 ・ 介護職と家族のラポールの形成について ・ 介護負担とレスパイト・ケア
(合計時間数)	3	3		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	①介護技術の根拠となるこころとからだのしくみの基本的な知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重しながらその人の在宅・地域等での生活を支えるための介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
24 介護の基本的な考え方	4	4		<講義内容> ・理論と法的根拠に基づく介護 ・介護保険制度下の介護サービス
25 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4		<講義内容> ・加齢に伴う変化とその心理 ・高齢期のパーソナリティと適応 ・高齢期の喪失体験 ・自己実現と生きがい ・生きがいとはなにか ・生きがいづくり支援
26 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4		<講義内容> ・人体各部の名称 ・骨格・関節・筋のはたらき ・身体の動きの基本 ・ボディメカニクスの原則と介護への活用 ・神経系に関するからだのしくみ ・バイタルチェック
27 生活と家事	6	6		<講義内容> ・家事支援の必要性と目的 ・信頼関係の構築と秘密保持 ・利用者に合わせた生活 ・家事支援の介護技術 <演習実施方法> ・家事支援についてグループディスカッションを行う。
28 快適な居住環境整備と介護	6	6		<講義内容> ・住居の役割と機能 ・快適な環境づくりと安全 ・室内整備と清潔 ・福祉用具の活用にあたって ・福祉用具とその使用方法 <演習実施方法> ・具体的な事例を通して、行動特性や安全に配慮した快適な環境整備の工夫についてグループディスカッションを行う。
29 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 ・口腔ケアの支援技術 <演習実施内容> ・ベッド上での全身清拭について演習を行う。 ・ベッド上での洗髪について演習を行う。 ・ベッド上での部分浴（手浴・足浴）について演習を行う。 ・ベッド上での陰部洗浄について演習を行う。
30 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<講義内容> ・体位・姿勢の介護 ・衣類の着脱の介護 ・移乗の介護

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすでの移動の介護</li> <li>・外出の介護</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽な体位・褥瘡の予防について演習を行う。</li> <li>・ベッド上の体位変換について演習を行う。</li> <li>・車椅子の基本構造について演習を行う。</li> <li>・車椅子の移乗について演習を行う。</li> <li>・肢体不自由者や視覚障がい者の歩行介助について演習を行う。</li> </ul>
31 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関する基礎知識</li> <li>・嚥下・咀嚼のしくみ</li> <li>・食事介護の一般的な原則</li> <li>・身体状態に応じた食事介助</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢の整え方について演習を行う。</li> <li>・食事のときの姿勢について演習を行う。</li> <li>・視覚障がい者の食事介助について演習を行う。</li> </ul>
32 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴・清潔保持の基礎知識</li> <li>・一般的な入浴介護の手順</li> <li>・障がい別、入浴の環境と介護</li> <li>・リフト浴と機械浴の介護</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浴槽での安全な入浴介助について演習を行う。</li> <li>・目・鼻・耳・爪の清潔方法について演習を行う。</li> </ul>
33 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関する基礎知識</li> <li>・排泄行動の機能と自立に向けたアセスメント</li> <li>・排泄用具別に見た介護のポイント</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド上での差し込み便器・尿器・おむつ交換について演習を行う。</li> </ul>
34 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関する基礎知識</li> <li>・安眠の為の介護の工夫と環境整備</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーツ交換について演習を行う。</li> </ul>
35 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3	3		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期とは</li> <li>・終末期の心身の変化と対応</li> <li>・終末期ケアとは</li> <li>・家族へのケア</li> <li>・介護従事者の基本的態度と他職種との連携</li> </ul>
36 介護過程の基礎的理解	6	6		<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の目的と意義</li> <li>・介護過程の展開</li> <li>・介護過程とチームアプローチ</li> </ul> <p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な利用者の事例を用いて、それぞれの介護過程の目的・意義・チームアプローチの方法等についてロールプレイングの形で演習を行う。</li> </ul>
37 総合生活支援技術演習	6	6		<p>&lt;演習実施内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の各場面の介護について、具体的な利用者の事例を用いて、一連の生活支援の提供の流れを理解し、利用者の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。</li> <li>・具体的には、事例の提示→アセスメント→適切な支援技術の検討→支援技術演習→振り返り→課題のまとめの形で行う。</li> </ul>
(合計時間数)	75	75		

使用する機器・備品等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行器、各種杖、白杖、アイマスク</li> <li>・ベッド、車いす、テーブル、足台、椅子、クッション</li> <li>・自助具、食器、各種歯ブラシ、舌ブラシ、受水盆、コップ、タオル</li> <li>・スプーン、フォーク、箸、吸い呑み、エプロン、タオル、ストロー、おしぼり</li> </ul>
------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般浴槽、シャワーチェアー、バスボード、入浴台、洗面器、滑り止めマット、ヘアブラシ、くし</li> <li>・ドライヤー、爪切り、シャンプーハット、バケツ</li> <li>・ウォッシュクロス、シャンプー、リンス、石鹸、保湿クリーム、綿棒</li> <li>・陰部用洗浄容器、ゴム手袋、やかん、湯せん用ピッチャー、防水シート、タオル、陰部用タオル</li> <li>・バスタオル、安全カミソリ、電気カミソリ、ヘアバンド、耳栓、歯ブラシ、コップ、受水盆</li> <li>・50%エタノール、洗髪器、ガーゼ・ポータブルトイレ、尿器（男性用・女性用）、差し込み便器、各種おむつ、パッド、おむつカバー</li> <li>・防水シート、桶、バケツ、バスタオル、タオル、下用タオル、トイレトペーパー</li> <li>・布団、毛布、掛け布団、パジャマ、枕、クッション</li> <li>・まくらカバー、シーツ、防水シーツ、タオルケット、ベッドブラシ</li> </ul>
--	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 102

商号又は名称： 学校法人 大阪国際学園

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	①研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 ②介護人材の資格制度について理解するとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢を養う。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
38 振り返り	2	2		<講義内容> ・研修を通じて学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護についての要点 <演習実施方法> ・チェックシートに基づき学習到達度をチェックする。 ・今後継続して学ぶことについてグループディスカッションを行う。
39 就業への備えと研修修了後における事例	2	2		<講義内容> ・介護人材の将来見通し ・キャリア段位制度のしくみ ・事業所等における事例に学ぶ
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。